

# 令和6年度 小林市立野尻中学校 学校関係者評価書

2025/2/20

| 【学校の教育目標】                               |  | 【学校経営ビジョン】   | 《評価:4段階評価》                                    |
|---|--|--|---|
| 未来を生き抜くための確かな学力、豊かな心、たくましいからだをもった子どもの育成 |  | 「自立と自律」「感謝」「貢献」をスローガンに、学校・家庭・地域が一体となって活力ある教育活動を推進することにより、学校教育目標の具現化を図り、信頼される学校づくりに努める。 | 4 期待以上<br>3 ほぼ期待どおり<br>2 やや期待を下回る<br>1 改善を要する |

| 項目     | 本年度の重点目標と目標達成のための手段   | 結果の考察・分析及び改善策等  | 自己評価                         | 関係者評価 | 学校関係者評価のコメント   |
|--------|---|---|------------------------------|-------|--|
| 知<br>育 | <p>○授業力の向上と学力の向上<br/>           ① 年1回の研究授業と相互参観授業の積極的な実施<br/>           ② ICT 活用や生徒指導の三機能を活かした授業実践と家庭学習充実に向けた支援<br/>           ③ キャリア教育の充実と主体的な学習態度の育成<br/>           ④ 英語検定・漢字検定などの検定取得率向上</p> | <p>① 全職員で指導案の検討と事後研究会をすることで、個に応じた授業改善を進めることができた。<br/>           パワーアップテストの実施により、基礎学力の定着に繋がっている。<br/>           ② ICT 活用については、アプリの扱い方の研修を行い、全職員が積極的に授業で使用するよう図ることができた。しかし、職員によって使用頻度に少し偏りあった。<br/>           家庭での学習状況は保護者のアンケートによると充実しているとは言えないでの、生徒が苦手教科の克服を主体的に取り組める手立てを講じていく。<br/>           ③ 各学年の発達段階に応じて、計画的に進めることができた。しかしながら、将来の夢や目標について描こうとする力に個人差がある。<br/>           ④ 英語検定を延べ60名が受験(年3回)し、1年生7名、2年生19名、3年生 34名が準2級～5級に合格。(合格率 50%)<br/>           漢字検定を述べ67名が受験(年3回)し、1年生 12名、2年生30名、3年生25名が2級～5級に合格。(合格率 40%)</p> | ①3.2<br>②3.0<br>③3.0<br>④3.1 | 3.3   | <p>① どのような授業改善がされているのか関心があるので、参観もしくは指導案の提供をお願いします。<br/>           ② ICT 活用は不可欠なのでもっと積極的にしてほしいが、それに頼らなくてよい力量をもった先生もいるので、頻度の偏りは気になりません。数学・英語に対する苦手意識は永遠のテーマです。つまずいている生徒への適時・適切なサポートをお願いします。<br/>           ③ 生徒の77%が夢や目標をもっているのは多いと思います。近い将来に視線を移してあげる、そのようなキャリア教育に力を入れるとお上がると思います。<br/>           ④ 取得の必要性なりをきちんと説明したほうが、受験者数と合格率も伸びると思います。あと検定前のサポートをぜひやってもらいたい。</p> |
| 徳<br>育 | <p>○心の教育と生徒指導の充実<br/>           ⑤ 全教育課程を通しての人権教育の充実<br/>           ⑥ 教育相談、いじめアンケートなどの活用と不登校傾向の生徒に対する支援の充実<br/>           ⑦ 読書活動、各種コンクール等への積極的な参加</p>  | <p>⑤ 外部講師を招いた人権に関する授業を各学年2回以上実施できた。また、全職員による道徳科の授業の100%実施や情報モラルに関する集会指導を、3回実施することができた。<br/>           ⑥ 週1回のペースで「生徒理解」を図る時間を設定し、全職員で共通理解を図ることができた。また、いじめ及び不登校、特別な支援を要する生徒への効果的な支援を協議する会を定期的に開催し、組織的な即時対応ができる体制をつくることができた。学校生活アンケートを毎月実施。教育相談も定期的に行なうことができた。<br/>           ⑦ 年間貸出し目標4,000冊を達成できた。(1/21現在、約4,219冊) 宮崎日日新聞「若い目」やこども新聞「学園俳壇・詩壇・歌壇」への投稿に取組、多くの生徒の作品が掲載された。また、市の「家族の作文」「青少年健全育成標語」において、優秀賞や特別賞を受賞した。</p>   | ⑤3.1<br>⑥3.2<br>⑦3.7         | 3.3   | <p>⑤ 道徳科の授業風景を実際に見てみたかったです。道徳や人権については、大人がお手本にならないといけない。<br/>           ⑥ 全職員で共通理解を図ることは、本当に大切だと思います。いじめアンケートをいじめの早期発見にもっと活かせるよう、質問項目の見直しなどしてほしい。(何気ない言動でもいじめになっていると認識できるような)<br/>           ⑦ 本もたくさん読み、視野を広げ語彙力を高めれば、生きる力になります。国語力も身につく良いことです。ただ家庭で本を読んでいる割合が低いので上げてほしい。</p>   |
| 体<br>育 | <p>○体力の向上と健康安全の充実<br/>           ⑧ 体力向上プランに基づく体力向上<br/>           ⑨ 健康管理能力の向上、虫歯治療率・肥満率の改善<br/>           ⑩ 安全教育、防災教育、避難訓練等の充実、安全意識の高揚と危険回避能力の育成</p>  | <p>⑧ 新体力テストの結果を踏まえ、落ち込んでいる体力の要素を向上させるためのトレーニングメニューを作成し、取り組ませることができた。また、持久走大会前には放課後に20分間走力向上の取組みも行った。しかし、30%ほどの生徒は、主体的に体力を向上する取組みをしていない。<br/>           ⑨ 虫歯治療率が86.4%、肥満度12.5%であった。今後も養護教諭を中心に個別指導や家庭との連携を図り、虫歯治療率100%、肥満度10%以下をめざす。<br/>           ⑩ 火災・地震・不審者を想定した通常の避難訓練に加え、8月に3年生を対象に避難所運営訓練をPTAや西諸県広域消防などの協力で実施した。災害時引渡し訓練では、前年度始めた工夫改善により、車の出入りもスムーズに大きな混乱もなく実施できた。</p>  | ⑧3.5<br>⑨3.5<br>⑩3.5         | 3.1   | <p>⑧ 県の体力賞を受賞したということは、向上トレーニングが功を奏していると思います。しかし、この数年で比べると体力低下、個人差が広がっていると思うので、何らかのサポートが必要ではないでしょうか。<br/>           ⑨ 虫歯治療は家庭の理解・協力が必要であり、共働きの家庭は難しいかもしれない。<br/>           ⑩ 新しい取り組みとして防災訓練は非常に良かったと思いますので、できれば継続していただきたい。</p>  |
| 食<br>育 | <p>○食育の充実<br/>           ⑪ 朝食の完全摂取<br/>           ⑫ 「弁当の日」の取組の充実と感謝の心や豊かな食習慣の育成<br/>           ⑬ 給食指導の充実と給食の残食率10%以下、アレルギー等の確実な対応</p>   | <p>⑪ 朝食摂取率は83.0%(平日)で、完全摂取とはならなかった。保健主事からの「保健だより」の配付や個別指導等を通して、今後も朝食の完全摂取をめざす。<br/>           ⑫ 弁当の日は、生徒に取組み方のコースを選択させ、1回実施した。また、2月19日の給食感謝集会に、本年度も外部講師を招いて給食の献立や栄養面に関する講話をしていただく予定である。<br/>           ⑬ 生徒の残食を減らすことへの意識は高く、目標としていた残食率10%以下をほぼ毎日全学年で達成することができた。修学旅行中の食物アレルギーへの対応も確実にできた。</p>  | ⑪3.4<br>⑫3.4<br>⑬3.2         | 3.5   | <p>⑪ 食育を小学校から継続しているので、食に対する意識が高くなっているように思います。ただし、未摂取の原因は分かっているのであれば、何らかの手立てをとる必要があると思います。<br/>           ⑫ 弁当の日は、自分でつくることで食に対する感謝の気持ちを高めることが目的だと思うので、ひきつづき継続してほしい。<br/>           ⑬ 自分が食べる量を調整できるような手立てをとれば、残食もでないと思います。</p>   |